
特別コンサート

愛知芸大所蔵 鈴木政吉 1929 年製手工ヴァイオリンによる特別コンサート

Performing with Masakichi Suzuki's Handcrafted Violin (1929)

Owned by Aichi University of the Arts

井上さつき Satsuki Inoue 愛知県立芸術大学音楽学部教授 (音楽学)

Abstract

It is unknown how many high-class handmade violins were made by Masakichi Suzuki in his mature period; most of them seem to have been lost. However, one made in 1929 was found, and it was donated to Aichi University of the Arts by its owner, Mr. Tadayoshi Matsuura. This violin has an exquisite design on the back, made in one piece from solid hardwood (probably maple). Having been repaired, its first concert, in May 2014, received sensational acclaim. Since then, this violin has appeared in various concerts, such as the historical reconstruction concert of the Meiji and Taisho era. This 1929 violin, resurrected after half of a century of hibernation, sounds ever more brilliant and elegant throughout a cumulative series of performances.

The public thoroughly enjoyed the charm of the instrument in the special concert which was held in the evening of September 23, after the first session of the international symposium. It was played by Takeshi Kiriyama, associate professor at Aichi University of the Arts: with the young pianist Chisaho Egawa, graduate of Aichi University of the Arts (MM), he played the Sonata for Violin and Piano in D, op. 11 no. 2 by Paul Hindemith, and the Sonata for Violin and Piano No. 9 in A, "Kreutzer," op. 47, by Beethoven. The audience gave them a generous ovation for their lively and splendid performance.

特別コンサート開催概要

鈴木政吉が円熟期に製作した高級手工ヴァイオリンは、現在ではほとんど残っていないが、そのひとつが所有者の松浦正義氏から愛知県立芸術大学に寄贈された 1929 年製の楽器である。一枚板で作られた裏の模様が見事な逸品で、修復後、2014 年 5 月に行われたお披露目演奏は大きな反響を呼んだ。それ以降、この楽器を使って明治大正の音楽会を再現するなど、さまざまなコンサートが行われている。半世紀の眠りから覚めた政吉ヴァイオリンは、演奏を重ねるにつれ、楽器の音がつややかに鳴り響くようになり、あでやかさを増している。9 月 23 日午後の国際シンポジウムで井上により行われた発表「日本のヴァイオリン王 鈴木政吉」に続いて、この特別コンサートでは、本学弦楽器コースの桐山建志准教授の演奏により、この楽器の魅力を聴衆の方々に味わっていただいた。ピアノは江川智沙穂さん。二人による白熱の演奏であった。

曲目は、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ 第 9 番 イ長調《クロイツェル》と、ヒンデミッ

トのヴァイオリン・ソナタ ニ長調 Op.11-2の2曲だった。このうち、ベートーヴェン(1797-1828)の《クロイツェル》は1803年に完成した作品で、古今のヴァイオリン・ソナタの名作として知られている。一方、ヒンデミット(1895-1963)のOp.11は初期の作品で、第一次世界大戦末期から直後にかけて書かれた、さまざまな弦楽器のための6曲からなっている。今回演奏されたOp.11-2は、Op.11-1と共にヴァイオリンとピアノのための作品で、ロマン派の伝統を受け継ぐ、重厚で劇的なソナタである。ベートーヴェンとヒンデミットによるヴァイオリン・ソナタというプログラム構成は、かなりハードな内容であったが、愛知芸大室内楽ホールのすばらしい音響に包まれて、凝縮された濃厚な音楽的時間を演奏者と聴衆の間で共有することができた。この演奏会は鈴木政吉に対する何よりのオマージュとなったと思う。

出演者

桐山建志(ヴァイオリン/愛知県立芸術大学弦楽器コース准教授)

江川智沙穂(ピアノ/愛知県立芸術大学大学院卒)

井上さつき(レクチャー/愛知県立芸術大学音楽学コース教授)

プログラム

ベートーヴェン: ヴァイオリン・ソナタ 第9番 イ長調 《クロイツェル》

ヒンデミット: ヴァイオリン・ソナタ ニ長調 Op.11-2



井上さつき教授



桐山建志准教授(左)と江川智沙穂氏(右)